

第8回戦術委員会確認事項

2025年4月23日
全日本金属産業労働組合協議会
(金属労協/JCM)

金属労協は、本日、第8回戦術委員会を開催し、回答状況の把握を行うとともに、JC共闘の今後の進め方を確認した。

1. 金属労協全体では、3,050組合のうち2,596組合が要求を提出、2,321組合(89.4%)が賃上げ(賃金改善分)を要求し、要求額の平均は13,987円となっている。

要求提出組合のうち、1,960組合(75.5%)が回答を引き出している。回答引き出し組合のうち、1,708組合(87.1%)が賃上げを獲得している。組合規模別で見ると、1,000人以上が219組合(94.8%)、300~999人が427組合(96.6%)、299人以下が1,062組合(82.5%)となっている。

賃上げ額の平均は10,481円となり、規模別では、1,000人以上が12,959円、300~999人は11,814円、299人以下は9,360円となっている。

一時金は1,312組合が回答を引き出し、平均月数は年間4.68カ月となっている。なお、最低獲得水準である年間4カ月以上の組合は82.6%となり、前年同時期より0.2ポイント増加している。

2. これまでの要求・回答状況をみると、昨年同様、9割近い組合が賃上げを獲得している。また、賃上げ額は、すべての規模で近年で最も高い回答となっており、積極的な賃上げの流れが継続している。また、299人以下の上げ幅が最も大きくなっており、格差是正に向けて取り組みを進めている。

今後回答を引き出すすべての組合は、これまでの獲得状況を踏まえ、要求にこだわり、全ての組合員の実質賃金を向上させるとともに、格差の拡大に歯止めをかける賃上げの獲得を強く求めていく。

また、企業内最低賃金協定の締結拡大・水準引き上げに強力に取り組み、特定最低賃金の引き上げ・新設につなげ、産業全体の賃金の底上げを図っていく。さらに、非正規雇いで働く労働者の賃金・労働諸条件の改善や、働き方の見直しに関する協議などを重ねていく。

金属労協は引き続き共闘体制を維持し、各組合は産別指導の下、精力的に交渉を展開し、納得しうる回答引き出しのもと、速やかに決着を図ることとする。

3. 次回、第9回戦術委員会を5月29日に開催する。

以上